様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 21 日現在

機関番号：32663
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2009～2011
課題番号：２１５２００５１
研究課題名（和文）　王畿の良知心学と明末の講学活動に関する基礎的研究

研究課題名（英文）　A Basic Study of the Wang Ji’s Philosophy of Innate Knowledge (*liang-zhi*)　and Activity of Lecture Gatherings(*jing-xue*) in the late Ming

研究代表者
小路口　聡（SHOJIGUCHI　SATOSHI）
東洋大学・文学部・教授
研究者番号：３０２１６１６３

研究成果の概要（和文）：本研究は、王畿の良知心学の思想と、王畿を中心とした陽明後学の思想家たちの、明末における講学活動の実態を明らかにするための基礎的研究として、『龍溪王先生會語』(全６巻）の現代語訳を作成することを目指したものである。現在のところ、４巻までを訳し終えた。その成果としては、３巻までを冊子体で、４巻は訳注として学術雑誌に発表した。

研究成果の概要（英文）：In this research, we aimed at creating the Japanese translation of ″Long-xi Wang Xiangsheg Huiyu″ (all the 6 volumes), as a basic study for clarifying Wang Ji’s thought of Innate Intuition (*liang-zhi*) and the actual condition of Lecture Gatherings(*jing-xue*) of the thinkers after Wang Yang-ming centering on WangJi . At present, we have finished translating to the 4th volume. As the result, we published the translation and annotation from the 1st volume to the 3rd volume with the booklet object, and published the translation and annotation of the 4th volume to the scholarly journal.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	1,200,000	360,000	1,560,000
２０１０年度	1,100,000	330,000	1,430,000
２０１１年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総　計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：哲学・中国哲学
キーワード：王畿・龍溪会語・龍溪王先生會語・陽明学・良知・心学・講学・陽明後学

１．研究開始当初の背景

王守仁の高弟として名高い王畿（1498～1583）の良知心学の思想は、これまでは、主に『龍溪王先生全集』を基本資料として解析されてきた。しかし、その語録部分の多くは、主に王畿の講会での講学や質疑の内容を自

身が記録整理した、現存する最古の刻本である貢安國編『龍溪王先生會語』（以下、『龍溪会語』）を素材にして、門人たちの手によって整理（増損・編集）された二次的文献資料である。それ故、王畿の良知心学の、生（なま）の現場性に近づこうとする時には、何よりも、この『龍溪会語』を第一次資料にして精読することが必須とされる。更には、講会の記録としての『龍溪会語』は、同時代の陽明後学の思想家たちの思想内容やの思想動向を知る上でも、貴重な基礎的資料である。にもかかわらず、『龍溪会語』は、これまで、思想研究の場において、あまり活用されることが少なかったように思われる。この思想史的にも、哲学的にも、重要なテキストを、分かりやすい現代日本語で訳出することは、中国哲学研究者のみならず、そこでの議論の内容が、「心学」独特の、生きて働く生身の人間存在の「心」を取り扱うものであるという点においても、人間存在について、また、その生き方について、深く思索しようとする、多くの人々に対して、豊かな哲学的資源を提供することになるものと我々は考え、この『龍溪会語』の訳出を企図した次第である。

２．研究の目的

本研究では、王畿の良知心学の思想、及び、同時代の陽明後学の思想家たち（例えば、銭德洪、羅汝芳、耿定向、羅洪先、張陽和、聶豹、王愼中、唐順之ら）の講学の実態を理解する上での、貴重な哲学的資源である『龍溪会語』を精読し、詳細な訳注を付した、現代語訳のテキストを完成させることを目指す。

１．の末尾でも述べたように、現代日本語で読むことのできる陽明心学の基本的文献を公表することは、中国哲学研究の裾野を広げると同時に、幅広く、一般の読者にも、優れた哲学的資源として、陽明学の精華を紹介することにもなるであろう。

３．研究の方法

（1）底本は、昭和７（1932）年８月、当時の京城において出版された稲葉岩吉氏蔵 明萬暦四年刊本『龍溪王先生會語』の景印本（発行者 葛城末吉）を使用した。

（2）清道光二年重刊『王龍谿先生全集』全20巻（臺北華文書局　1970）に、門人の手によって収録・編集された「会語」と対照しながら、文字の異同・増損を明らかにした校注を作成する。

（3）呉震編校整理『王畿集』（鳳凰出版社 2007　＊附録二の『龍溪会語』）、和刻本近世漢籍叢刊・思想続編『龍溪王先生全集』（中文出版社　1975）、和刻本漢籍文集第16輯『龍谿王先生文集』（汲古書院　1978）等を参考にしながら、校注・訓読・現代語訳・訳注を作成していく。

（4）訳注を作成するにあたっては、単なる語句の意味と出典を羅列するだけではなく、そのテキストの作者の思想の誕生の現場に立ち会うことができるように、その言語・読書・思索環境が参照可能な、多くの関係する、王畿の発言や同時代の思想家達の言説資料を、煩を厭わず掲載することにした。

（5）王畿、及び、陽明後学の講学活動の実態の理解については、中純夫「王畿の講学活動」（『富山大学人文学部紀要』第26巻　1997）、陳来「明嘉靖期王学知識人的会講活動」（『中国近世思想史研究』商務印書館　2003）、佐野公治「明代嘉靖年間の講学活動―陽明学派の講学―」（『陽明学』第16号　2004）、呉震『明代知識界講学活動1522-1602』（學林出版社　2003）、陳時龍『明代中晩期講学運動(1522-1626)』（復旦大學出版　2005）などの先行研究を参考にした。

（6）テキストの読解にあたっては、読書会を組織し、研究代表者と分担者が、それぞれ分担して、訳文・訳注を作成、全員で集まって、検討吟味した。担当者は、以下の通りである。　第１巻：鶴成久章。第２巻：小路口聡。第３巻：早坂俊廣。第４巻：小路口聡。（第５巻以降は、未読）。

（7）読書会は、年４回。３年間で計 12 回、行った。会場は、主として、東洋大学文学部会議室（東京）で行ったが、2010年９月の会には広島大学名誉教授の佐藤仁先生を招いて福岡で、また、2011年９月の会は、浙江省社会科学院教授の銭明先生に指導を仰ぐ目的で、一同で、中国の杭州を訪れて行った。

（8）読書会には、随時、助言者として宋明代の思想・文学や仏教の研究者を招いて、その専門的知識に基づいて、原文の読解や訳語の選定、訳文についての意見を出してもらった。ここにお名前を挙げて、感謝の意を表したい。呉震先生（復旦大学）、銭明先生（浙

江省社会科学院）、佐藤仁先生（広島大学名誉教授）、木下鉄矢先生（京都大学）、本多道隆先生（梅松院副住職）、田口一郎先生（日本大学）、三浦秀一先生（東北大学　＊、第三巻訳注稿校閲担当）。

（＊ここに記した個人名・組織名については、すでに掲載の許可を得ている。）

４．研究成果

(1)『龍渓会語』全６巻のうち、４巻まで読了することができた。その成果は、随時、学術雑誌に掲載し（５．主な発表論文等の〔雑誌論文〕を参照）、その抜き刷りを内外の宋明思想の研究者たちに配布した。

(2) 上記の訳注稿の雑誌掲載後に、寄せられた意見や疑問点をもとに、更に訳文の検討・吟味を加えていき、修正を施したものを、巻毎に編集整理して、以下の通り、冊子体で、研究者に印刷配布した。

『龍渓王先生会語』巻一訳注（2010.3.）
『龍渓王先生会語』巻二訳注（2011.3）
『龍渓王先生会語』巻三訳注（2012.3.）

(3) 小路口聡（代表者）が、王畿の良知心学の原理的考察を行い、「一念」を鍵概念として、良知心学の「良知現成」論、及び、その「無」の哲学の哲学的意義を解明した論文２本「王畿の「一念」の思想」と「王畿の「一念自反」の思想」、及び、王畿晩年における「自訟」の意味を、その良知心学の上に位置づけながら考察した「王畿晩年の「自訟」についての考察」を発表した。

(4) 吉田公平が、「川田雄琴の『大洲好人録』について」と題する論文を発表し、王畿の「当下現在の一念」に自己の存立をかけて生きることを説く良知心学の真髄が、江戸期の日本の地方都市（伊豫・大洲）の庶民の間にまで、深く浸透していた事実を指摘した。

(5) 吉田公平（研究分担者）が、復旦大学で、同哲学学院の院生約百名を前に、「日本における心学の特色」と題した講演を行い、王畿等の提唱した「心学」運動の日本的展開の特色について述べた。

(6) その他の分担者は、各自の読解力と専門領域の知識を最大限に駆使して、訳文・訳注の作成に寄与した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 12 件）

①吉田公平・小路口聡・早坂俊廣・鶴成久章・内田健太「王畿『龍渓王先生会語』訳注 其の十」『白山中国学』通巻 18 号　2012 pp. 1-21、査読有

②吉田公平・小路口聡・早坂俊廣・鶴成久章・内田健太「王畿『龍渓王先生会語』訳注 其の十一」『東洋古典學研究』第 33 集 2012　pp. 101-129、査読無

③小路口聡「王畿晩年の「自訟」についての考察」『東洋学研究』第 49 号　2012 pp. 137-160、査読有

④吉田公平「川田雄琴の『大洲好人録』について」『東洋大学中国哲學文學科紀要』第 20 号　2012　pp. 1-18、査読無

⑤小路口聡「王畿の一念の思想――王畿良知心学原論（一）――」　『東洋大学中国哲学文学科紀要』第 18 号　2011　pp. 17-58、査読無

⑥小路口聡「王畿の「一念自反」の思想――王畿良知心学原論（二）――」『東洋大学中国哲学文学科紀要』第 19 号　2011 pp. 23 -68、査読無

⑦吉田公平・小路口聡・早坂俊廣・鶴成久章・内田健太「王畿『龍渓王先生会語』訳注 其の八」『東洋古典學研究』第 31 集　2011 pp. 113-149、査読無

⑧吉田公平・小路口聡・早坂俊廣・鶴成久章・内田健太「王畿『龍渓王先生会語』訳注 其の九」『東洋古典學研究』第 32 集　2011 pp. 153-181、査読無

⑨吉田公平「日本的心学特色」『儒学天地』第 17 期　2011 pp. 15-17、査読無

⑩吉田公平・小路口聡・早坂俊廣・鶴成久章・内田健太「王畿『龍渓王先生会語』訳注 其の四」『白山中国学』通巻 16 号 2010 pp. 65-170 、査読有

⑪吉田公平・小路口聡・早坂俊廣・鶴成久章・内田健太「王畿『龍渓王先生会語』訳注 其

の五」『東洋古典學研究』第 29 集　2010 pp.147-186、査読無

⑫吉田公平・小路口聡・早坂俊廣・鶴成久章・内田健太「王畿『龍渓王先生会語』訳注 其の六」『東洋古典學研究』第 30 集 2010 pp.141-189、査読無

⑬吉田公平・小路口聡・早坂俊廣・鶴成久章・内田健太「王畿『龍渓王先生会語』訳注 其の七」『白山中国学』通巻 17 号　2010 pp.65-79、査読有

〔学会発表〕（計１件）

① 吉田公平「日本における心学の特色」復旦大學哲学院招待講演 2011.9.9.　復旦大学・哲学学院会議室

〔図書〕（計１件）

① 鶴成久章「第七章　明代」（湯浅邦弘編著『概説中国思想史』ミネルヴァ書房 2010.10.　＊分担執筆。pp.145－164）

６．研究組織

(1)研究代表者

小路口　聡（SHOJIGUCHI　SATOSHI）
東洋大学・文学部・教授
研究者番号：３０２１６１６３

(2)研究分担者

吉田　公平（YOSHIDA　KOUHEI）
東洋大学・文学部・教授
研究者番号：７００３６９７９

鶴成　久章（TSURUNARI　HISAAKI）
福岡教育大学・教育学部・教授
研究者番号：２０２９４８４５

内田　健太（UCHIDA　KENTA）
岐阜聖徳学園大学・教育学部・講師
研究者番号：５０５３４６６６

(3)連携研究者

早坂　俊廣（HAYASAKA　TOSHIHIRO）
信州大学・人文学部・准教授
研究者番号：１０２５９９６３